

科目名	クリティカルシンキング	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	掛田 崇寛		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	<p>本科目では、与えられた情報や人の意見について深く考え、自問自答や周囲の人との話し合いを通じて、納得できる考えや判断を見つけ出すための技術を学ぶ。&lt;クリティカルシンキング&gt;の概念や方法は医療や看護の場では多職種連携、医療事故の予防、研究において重要であり、&lt;臨床推論&gt;を行う思考プロセスの基礎となる。社会生活の仕組みや実際の医療現場での活用事例を通して場面を想定しながら学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<p>1) 思考について説明ができる  2) 分析の考え方について説明できる  3) 論理の展開方法について説明できる  4) ディベートを通して、学修したことを実践できる  また、&lt;臨床推論&gt;につながるように、医学、看護などのテーマを題材にした論理的思考のミニ演習を行う。</p>				
アクティブ・ラーニング	<p>■ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      ■ C プレゼンテーション  □ D 実習/フィールドワーク      □ E その他 ( )</p>				
対応するDP	<p>■ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力  □ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力  □ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力  □ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力  □ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術</p>				
対応するCP	<p>■ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分  □ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分  □ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分</p> <p>□ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。  □ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。  ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。  □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。  □ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。  ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。</p>				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	思考とは、情報収集とは			掛田
	2回	「分ける」ための3要件			掛田
	3回	2つの要素的思考成果			掛田
	4回	正しい事象の「識別」には			掛田
	5回	事象間の関係性の把握			掛田
	6回	論理とは			掛田
	7回	論理展開の方法			掛田
	8回	正しさの根拠			掛田
	9回	ファクトとロジック			掛田
	10回	合理的分析の手法			掛田
	11回	ディベート1(準備)			掛田
	12回	ディベート2(実施)			掛田
	13回	ディベート3(実施)			掛田
14回	ディベート4(実施)			掛田	
成績評価の方法	課題20%、授業への参画・貢献度20%、試験60%				
教科書	「思考・論理・分析―「正しく考え、正しく分かること」の理論と実践」(産業能率大学出版部)				
参考書	適宜、提示する。				
事前・事後学修	事前に教科書や提示された参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス	積極的にグループワークに参加してください。また、地域の方々とも触れ合おう				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	医療経営学	単位	2単位	時間数(回数)	30時間
担当教員名	羽田 明浩	必修選択	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択		
配当学年	1年、2年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input type="checkbox"/> 前半 <input type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	<p>経営学は現代を取り巻く様々な社会現象を対象とする学問である。本講義では、経営学の中でも医療経営を中心に学ぶ。医療経営の基礎となる医療制度・政策に関する解説、マネジメントに関する諸概念の解説を行なう。さらに、医療福祉経営（訪問看護ステーションも含む）の実例を交え、演習・ディスカッションを通して学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営学の主要領域における基礎的な理論を説明できる</li> <li>・医療経営と医療政策の関係を説明できる</li> <li>・看護職が活躍する組織にとって経営学の必要性を説明できる</li> <li>・「人」と「組織」との相互関係性を体系的に学び、組織人として求められている行動について説明できる</li> </ul>				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 ( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> <b>I. 「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>II. 「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>III. 「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <hr/> <input type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	特に定めない。				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	オリエンテーション 看護職になぜ医療経営学が必要か			羽田 明浩
	2回	経営学における医療経営の特徴			羽田 明浩
	3回	経営戦略論 経営理念について			羽田 明浩
	4回	経営戦略論 事業ドメインについて			羽田 明浩
	5回	競争戦略論 業界の構造分析			羽田 明浩
	6回	競争戦略論 差別化戦略とコストリーダーシップ戦略			羽田 明浩
	7回	マーケティング論 マーケティングの定義			羽田 明浩
	8回	マーケティング論 プロモーション戦略			羽田 明浩
	9回	組織マネジメントとリーダーシップ			羽田 明浩
	10回	医療機関の組織デザインとライフサイクル			羽田 明浩
	11回	医療政策と医療経営			羽田 明浩
	12回	医療機関経営のケーススタディ			羽田 明浩
	13回	経営分析手法の解説 PEST分析・SWOT分析			羽田 明浩
14回	講義のまとめ			羽田 明浩	
成績評価の方法	試験70%、発表・課題30%				
教科書	羽田 明浩「医療経営戦略論」創成社				
参考書	ナースのためのヘルスケアMBA				
事前・事後学修	関心のある病院のウェブサイトを確認してください				
その他アドバイス	時事問題に関心を持ってください				
オフィスアワー	講義終了後に質問を受け付ける				

科目名	情報処理 I (基礎)	単位	1 単位	時間数 (回数)	30時間 (14回)
担当教員名	高柳 良太		必修選択	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1 年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input checked="" type="checkbox"/> 前半 <input checked="" type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	大学生生活において様々な場面 (レポート作成、卒業研究など) において情報機器やデバイス利用が必要不可欠である。基本的な表計算ソフト (Excel) を利用して統計方法を学ぶ。また情報リテラシーの基礎的な概念 (情報を活用する上での倫理、安全性)、情報の活用法、プレゼンテーションの技法、情報処理の保護や権利など情報モラルについて学ぶ。				
授業の到達目標	<p>本科目はPC利用を基本とし、Web等からデータを収集し必要な形式にまとめることができるようになることを目標としている。また合わせて、セキュリティや著作権について理解し、モラル的に問題の無い情報環境の利用ができるようになることも目的としている。</p> <p>1) ネットワークにおけるプライバシー等の危険性やセキュリティの必要性について理解する  2) 大学において学修するために必要な文書作成、プレゼンテーション技法の基礎的な技術を得て、各種資料の作成ができる  3) 保健統計に必要なとされる基本的な統計について理解し、データの処理ができる</p>				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 ( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> <b>I. 「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>II. 「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>III. 「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1 回	オリエンテーション・情報セキュリティ			高柳
	2 回	メール、メッセージのセキュリティ			高柳
	3 回	レポート作成と著作権			高柳
	4 回	レポートの書式設定			高柳
	5 回	プレゼンテーション1 スライドの計画とノートの管理			高柳
	6 回	プレゼンテーション2 ノートの利用と発表者ツールの活用			高柳
	7 回	統計情報の検索、利用			高柳
	8 回	記述統計1 質的変数の記述統計			高柳
	9 回	記述統計2 量的変数の記述統計			高柳
	10 回	グラフ作成の基礎			高柳
	11 回	量的データのカテゴリー化とヒストグラム			高柳
	12 回	クロス集計表の作成			高柳
	13 回	確率分布と推測統計			高柳
14 回	$\chi^2$ 乗検定			高柳	
成績評価の方法	毎回の提出物 (50%) 最終試験 (50%)				
教科書	特に定めない。				
参考書	「基本からわかる 看護統計学入門」(医歯薬出版)				
事前・事後学修	前回の学修内容や作成物を利用して次回の講義が行われることが多いので、不明点などは必ず次回までに解決し、課題提出を確実に行うようにすること。				
その他アドバイス	メッセージ機能等の学内LMS機能を十分に使用すれば、オフィスアワー以外でもやりとりは可能です。この授業を通じて対面とネットワーク、うまく使い分けられることができるようになってください。				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	情報処理Ⅱ（発展）	単位	1 単位	時間数（回数）	30時間（14回）
担当教員名	高柳 良太		必修選択	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1 年	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input checked="" type="checkbox"/> 前半 <input checked="" type="checkbox"/> 後半	<input type="checkbox"/> 集中
科目の概要	医療現場では、電子カルテによる情報管理や病院間での情報共有、ネット回線を使用しての遠隔医療など、医療分野においてICT（情報通信技術）は不可欠な存在となっている。看護職に必要なICTを活用するための基本を理解し、学修や業務におけるデータ管理及び活用のための道具として、複数のデバイス（スマートフォン・パソコン・タブレットなど）を用いて学ぶ。				
授業の到達目標	<p>本科目は、PC以外にタブレット等複数の機器利用を前提とし、複数人と共同で資料の作成や管理を行うことができるようになることを目標としている。合わせて電子カルテについての基本的な事項を理解し、組織内でのデータの共同利用と、セキュリティや法的な事項についても理解する。</p> <p>1) グループウェアを利用し、共同作業やデータの管理ができる</p> <p>2) 学内PCだけでなく、個人のタブレットやPC等の複数の環境から作業を行い、グループウェアの特徴や注意点を理解し使用できる</p> <p>3) 倫理面に配慮した質問項目を作成し、簡単な調査を実行しその結果を公表することができる</p> <p>4) 電子カルテについて、医療機関における情報の流れ等について概念化するとともに、看護記録を電子的に記録する際の法的な規制、電子カルテにかかわる倫理的な側面に関する知識を身につける</p>				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（ ）				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	<情報処理Ⅰ（基礎）>を単位修得していること。				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回	オリエンテーション・情報セキュリティ			高柳
	2回	グループウェアを使った共有の説明			高柳
	3回	共有文書の作成			高柳
	4回	共有データの作成			高柳
	5回	共有スライドの作成			高柳
	6回	アンケートの計画1 質問項目の検討			高柳
	7回	アンケートの計画2 集計方法の検討			高柳
	8回	アンケートフォームの作成			高柳
	9回	アンケートの集計			高柳
	10回	発表資料の作成			高柳
	11回	アンケート結果の発表			高柳
	12回	電子カルテ実習1 医療データと個人情報保護、倫理			高柳
	13回	電子カルテ実習2 データの種類と検索方法			高柳
14回	電子カルテ実習3 医療情報システムの中での電子カルテの位置づけ			高柳	
成績評価の方法	グループでの提出物（50％）最終課題（50％）				
教科書	「エッセンシャル看護情報学」（医歯薬出版）				
参考書	講義時に教員が随時指定				
事前・事後学修	電子カルテ以外はグループウェア上での共同作業が前提となります。タブレットの設定については授業内でも随時確認しますが、自宅PCについても作業ができるようにグループウェアのアクセス等の設定を行ってください。				
その他アドバイス	授業時間以外での作業が多くなると思います。タブレットや自宅PCなどをうまく利用して、共同作業				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				



科目名	総合講義	単位	1単位	時間数(回数)	15時間(7回)
担当教員名	坂元 昇、荒木田 美香子、山崎 由美子		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	川崎市で大学生活を過ごす新入生への導入教育である。大学生としての社会人基礎力や、大学における学修・生活の送り方などの基礎知識を確認し、自ら学ぶ姿勢を獲得する。また川崎市の医療情報に関する知識を学ぶ。				
授業の到達目標	1) 学生同士が知り合いになって、お互いに学修する集団を形成する 2) 川崎市が何を看護に期待しているのかを把握する 3) 学修の成果を上げるための技術を身に付ける				
アクティブ・ラーニング	□ A ディスカッション/ディベート ■ B グループワーク □ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク □ E その他( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input checked="" type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	オリエンテーション、学生同士の相互理解			荒木田、山崎
	2回	社会人基礎力とは			荒木田
	3回	川崎市立大学で学ぶという事			坂元
	4回	川崎市が期待する保健医療専門職(川崎市長)			荒木田
	5回	50年後の川崎市民の健康をどう作るか(川崎市健康福祉局長)			荒木田
	6回	大学生としての学び方：ポートフォリオ			荒木田
	7回	レポート作成の技術			山崎
成績評価の方法	課題20%、授業への参画・貢献度20%、試験60%				
教科書	特に定めない。				
参考書	適宜、提示する。				
事前・事後学修	事前に配布資料に目を通すとともに、現在の川崎市の人口静態・動態について調べておくこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス	積極的に質問を出してください。				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	川崎市の文化と科学	単位	1単位	時間数(回数)	15時間(7回)
担当教員名	坂元 昇、荒木田 美香子		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	□ 前半 ■ 後半	□ 集中
科目の概要	川崎市の歴史・文化・産業を学ぶことを通して川崎市と人々の生活を理解する。自分自身が地域の一員として、人々の生活・社会・健康との関係を理解できるように、市職員からの講義など川崎市の現状と課題を具体的に学び、川崎市の未来について医療・看護の視点から考察できる力を獲得する。				
授業の到達目標	1)川崎市がこれまでに課題を克服してきた過程を理解する 2)川崎市の現在、将来の人口構造を把握し、健康、暮らし、経済、文化の観点で生じる課題について考える 3)看護職として地域に貢献できることを考えられる				
アクティブ・ラーニング	□ A ディスカッションディベート ■ B グループワーク □ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク ■ E その他(授業で取り上げた地域や機関を訪問する)				
対応するDP	■ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 □ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 □ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 □ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 ■ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	■ <b>I.「人間理解の基礎」</b> :看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 □ <b>II.「専門基礎」</b> :倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 □ <b>III.「専門」</b> :看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ..... ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 □ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 □ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、JCT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 ■ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 ■ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	オリエンテーション:川崎市の将来人口推計			川崎市総務企画局 シティプロモーション推進室 ブランド戦略担当
	2回	川崎市の歴史(川崎市市民文化局市民文化振興室)			川崎市健康福祉局保健医療政策部 医療政策・医療安全担当
	3回	京浜工業地帯と喘息、結核との闘い(川崎市健康福祉局)			川崎市総務企画局 都市政策企画調整担当
	4回	都市をつくる(武蔵小杉)(川崎市まちづくり局都市計画課)			川崎市市民文化局 市民文化振興室 文化政策担当
	5回	博物館、スポーツの町、川崎(サッカー、バスケットボール) (川崎市教育委員会、川崎市市民文化局市民スポーツ室)			川崎市環境局企画課
	6回	川崎市の環境を守る(川崎市環境局地球環境推進室)			川崎市健康福祉局 地域包括ケア推進室
7回	元気高齢者を創る仕組み(川崎市健康福祉局長寿社会部、地域包括ケア推進室)			荒木田	
成績評価の方法	課題(地域の場所、機関の訪問や、地域の方々へのインタビュー)60%、ミニレポート授業への参画				
教科書	特に定めない。				
参考書	適宜、提示する。				
事前・事後学修	事前に配布資料に目を通すとともに、現在の川崎市の人口動態・動態について調べておくこと。また、授業後はその都度提示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス	積極的に質問を出してください				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	サービスラーニング論Ⅰ (基本)	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	淵田 英津子、笠原 順子、高橋 恵子		必修選択	■ 必修      □ 選択	
配当学年	1年	□前期 ■後期	前半/後半	■ 前半      ■ 後半      □ 集中	
科目の概要	サービスラーニングとは学生が得た専門的知識を地域社会において社会貢献活動などを通じて学修することである。ボランティアとの比較も行いながら、理念、方法、課題、実践例を学び、その後、実際に地域での貢献活動に参加し、体験を通して学びの振り返りを行う。その中で、認知面、情意面での学びを深め、看護の専門性を地域に還元するための基礎を学ぶ。				
授業の到達目標	授業の前半ではサービスラーニングの概念を学ぶ。4～6回の授業では、サービスラーニングに必要な技術を身に着けると共に、多様な考え方があることを学ぶ。これらの学修後に、学生がグループを作り、サービスラーニングの計画を立て、発表することにより、お互いの良い点を発見し、今後のサービスラーニングに反映させる。				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      ■ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク      □ E その他( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input checked="" type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回	本学におけるサービスラーニングのねらい、チームワークとは			淵田
	2回	サービスラーニングとは(考え方、学生の学び)			高橋
	3回	コミュニティパートナーの開拓			高橋
	4回	文化的なつながりを作る			笠原
	5回	学修と活動の関係			淵田
	6回	エンパワメントのための関係作り			淵田
	7回	リーダーシップとサービスラーニング			淵田
	8回	失敗から学ぶ			淵田
	9回	すそ野を広げるための工夫			淵田
	10回	取り組みの評価			淵田
	11回	取り組みの計画づくり1(素案作り)			淵田、笠原
	12回	取り組みの計画づくり2(計画の立案)			淵田、笠原
	13回	取り組み計画の発表会1			淵田、笠原
	14回	取り組み計画の発表会2			淵田、笠原
成績評価の方法	課題20%、授業への参画・貢献度20%、試験60%				
教科書	「市民参画とサービスラーニング」(岡山大学出版会)				
参考書	適宜、提示する。				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス	積極的にグループワークに参加してください。				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	教育学	単位	2単位	時間数（回数）	30時間
担当教員名	鶴田 利郎		必修選択	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1年、2年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input type="checkbox"/> 前半 <input type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	<p>教育に関する理念・思考、教育方法、教育実践の基礎的スキルを取得し、学生自身の生涯学習につなげられるようにする。また、人の発達や学習を理解したうえで、学習支援、保健指導等を行うという看護職の教育的役割の基本となる事項を学ぶ。</p>				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・看護で教育学が役立つ場を挙げることができる</li> <li>・学習を動機づける方法を説明できる</li> <li>・アクティブラーニングを含めた教育方法についてその特徴を説明できる</li> <li>・教育評価の方法を説明できる</li> <li>・メディアリテラシーについて重要な事項を説明できる</li> </ul>				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（ ）				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <hr/> <input type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	特に定めない				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	教育学とは			鶴田
	2回	教育現場における教師の役割			鶴田
	3回	教育場面における測定と評価			鶴田
	4回	教えることの方法と技術・アクティブラーニング			鶴田
	5回	発達理論と教育環境			鶴田
	6回	健康・安全に関わる教育			鶴田
	7回	学校現場での心の問題—生徒指導と教育相談—			鶴田
	8回	学習における動機づけ			鶴田
	9回	教育場面における個人と集団			鶴田
	10回	生涯学習・成人教育			鶴田
	11回	運動・スポーツに関する教育			鶴田
	12回	ソーシャルメディア時代に求められるメディア・リテラシー教育			鶴田
	13回	インターネット利用に関わる諸問題			鶴田
	14回	教育学での学びを看護の仕事に活かす			鶴田
成績評価の方法	試験70% 課題やディスカッションへの参画30%				
教科書	特に指定しません。原則として事前に授業資料を配布します。				
参考書	安彦忠彦、児島邦宏、藤井千春、田中博之（2012）『よくわかる教育学原論』ミネルヴァ書房 石上浩美、矢野正（2016）『教育心理学—保育・学校現場をよりよくするために』嵯峨野書院 中橋雄（2017）『メディア・リテラシー教育—ソーシャルメディア時代の実践と学び』北樹出版				
事前・事後学修	事前に配布する資料をよく読み、授業内でのグループワークやディスカッションに積極的に参加してください。 また、配布資料や参考書をもとに、授業内容についてしっかり復習してください。				
その他アドバイス	これまでみなさんが出会ってきた教師や自分が受けてきた教育を振り返りながら授業に参加してください。				
オフィスアワー					

科目名	比較文化論	単位	2単位	時間数(回数)	30時間
担当教員名	木曾 恵子	必修選択	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1年	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input type="checkbox"/> 前半	<input type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中
科目の概要	グローバル社会に対応するため、国や民族ごとの異なる文化を比較しながら相互理解のための方法を学ぶ。比較研究する文化の内容としては、歴史、言葉、芸術、ライフスタイルなどがあるが、他国や多民族の文化を比較研究するために、自国の文化についても学ぶ。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・病気や医療、看護を社会/文化的に構築される現象として相対的に捉え、説明できる。</li> <li>・現代社会における人の生活と健康/病気との関係について、文化的多様性を考慮したうえで、その課題を例示できる。</li> <li>・宗教と世界観、性的多様性、家族、看取りの現場等における文化の違いを説明できる。</li> <li>・対象者の文化的背景を尊重して看護ケアをする必要性を具体的に説明できる。</li> </ul>				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	特に定めない				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	比較文化の視点と方法ーなぜ看護学生が比較文化を学ぶのか			木曾
	2回	言語と文化			木曾
	3回	人種と民族			木曾
	4回	健康・病気・医療 (1) 健康の意味の文化的多様性			木曾
	5回	健康・病気・医療 (2) 病気の捉え方			木曾
	6回	宗教と世界観 (1) あなたの信じるものは何ですか			木曾
	7回	宗教と世界観 (2) 呪術のリアリティ			木曾
	8回	性(セックスとジェンダー) (1) 性自認の複数性と対等性			木曾
	9回	性(セックスとジェンダー) (2) 性的指向の複数性と対等性			木曾
	10回	家族 (1) あなたの大切な人はだれですか			木曾
	11回	家族 (2) 生殖医療の現場から			木曾
	12回	いのちの諸相			木曾
	13回	人間と死			木曾
14回	在日外国人患者と向き合う			木曾	
成績評価の方法	試験70%、課題20%、授業やディスカッション(10%)				
教科書	授業ごとにレジュメを配布する				
参考書	『系統看護学講座 文化人類学』(2014)波平恵美子編、医学書院 『からだの文化人類学』(2005)、波平恵美子、大修館書店				
事前・事後学修	学習したテーマを見直し、何が課題となっているのか説明できるように復習しておくこと				
その他アドバイス	視野を広げるために、紹介された参考文献や資料などに積極的に目を通し、自分の言葉で考えてみてください				
オフィスアワー	授業内で指示する				

科目名	日本国憲法と法	単位	2単位	時間数(回数)	30時間
担当教員名	川鍋 健	必修選択	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input type="checkbox"/> 前半 <input type="checkbox"/> 後半	<input type="checkbox"/> 集中
科目の概要	日本国憲法による人権保障について基礎的知識を修得する。人権についての考え方を身につけて社会の問題を人権の観点から考える。法的な思考法を理解する目的で法学の基礎的な概念について学ぶ。(養護教諭2種)				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の法体系と憲法の位置付けを説明できる</li> <li>・日本国憲法の基本となる考え方について説明できる</li> <li>・日本国憲法により保障されている権利について説明ができる。</li> <li>・看護職として基本的人権、生存権を保障するために、行うべきことを例を挙げて説明できる。</li> </ul>				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 ( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> <b>I.「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>II.「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>III.「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	特に定めない				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	ガイダンス・自己決定権と障害者の自由(教科書、Part1概説、事件1)			川鍋 健
	2回	母親となる権利(教科書、事件2)			川鍋 健
	3回	同性愛の自由(教科書、事件3)			川鍋 健
	4回	同一性障害者の自由(教科書、事件4)			川鍋 健
	5回	再婚の自由(教科書、事件5)			川鍋 健
	6回	治療拒否の自由(教科書、事件6)			川鍋 健
	7回	嫌煙権(教科書、事件13)			川鍋 健
	8回	ダンスの自由(教科書、事件7)			川鍋 健
	9回	ポルノ鑑賞の自由(教科書、事件8)			川鍋 健
	10回	プライバシー権(教科書、事件10を中心とするが、事件9、16にも言及する)			川鍋 健
	11回	景観権(教科書、事件12)			川鍋 健
	12回	自然の権利(教科書、事件14)			川鍋 健
	13回	氏名に対する権利(教科書、事件15)			川鍋 健
	14回	生存権(教科書、事件22)			川鍋 健
成績評価の方法	試験100%。ただし、授業内容に関する質問を受け付け、それを成績評価に加味します。詳細は授業中にお話します。				
教科書	棟居快行、松井茂記、赤坂正浩、笹田栄司、常本照樹、市川正人『基本的人権の事件簿』第6版、有斐閣、2019年				
参考書	岡田順太、淡路智典、今井健太郎編『判例キーポイント憲法』、成文堂、2020年				
事前・事後学修	授業の前後で、予習・復習として教科書を読んでみてください。なおこの授業では授業中の質問の受け付け、復習用の録画にzoomを用いる予定です。				
その他アドバイス					
オフィスアワー					

科目名	生涯発達論	単位	2単位	時間数(回数)	30時間
担当教員名	梶田 智子	必修選択	■ 必修      □ 選択		
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	□ 前半      □ 後半      □ 集中	
科目の概要	人間の心身の成長について、ライフサイクルと漸成性という観点から人間の各段階(胎生期・乳幼児期・学童期・思春期・青年期・成人期・老年期)における発達上の特性・課題について学ぶことにより、発達という観点から人間理解を深める。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各発達段階の特色を説明できる。</li> <li>・心理学の基礎的な考え方を理解できる。</li> <li>・対人援助において発達の視点が果たす役割を認識できる。</li> </ul>				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> <b>I. 「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>II. 「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>III. 「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <hr/> <input type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	特に定めない				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	イントロダクション 発達の視点を理解する			梶田
	2回	胎児期の特徴と課題			梶田
	3回	新生児期の特徴と課題			梶田
	4回	乳児期の特徴と課題			梶田
	5回	幼児期前期の特徴と課題			梶田
	6回	幼児期後期の特徴と課題			梶田
	7回	児童期の特徴と課題			梶田
	8回	思春期の特徴と課題			梶田
	9回	青年期の特徴と課題			梶田
	10回	成人期の特徴と課題			梶田
	11回	老年期の特徴と課題			梶田
	12回	発達と援助のかかわり① 発達障害			梶田
	13回	発達と援助のかかわり② 児童虐待とトラウマ			梶田
	14回	発達と援助のかかわり③ その他の問題			梶田
成績評価の方法	試験70%、授業内レポート20%、授業態度10%				
教科書	無藤隆・岡本祐子・大坪治彦『よくわかる発達心理学 第2版』ミネルヴァ書房 2018				
参考書	舟島なをみ・望月未知代『看護のための人間発達学 第5版』医学書院 2019				
事前・事後学修	事前に教科書や提示された参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー					



科目名	臨床心理学	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	安齊 順子		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	□ 前期 ■ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	心理学の歴史、人間の心の働きと仕組みを理解し、心理学の基礎的な概念について学ぶ。またカウンセリングと心理療法、社会とのかかわり(対人関係、集団心理)や看護学生が大学生活で直面する日常的な出来事、実習で体験する様々な課題を通して、看護と心理学の接点に気づくことが出来るよう心理学の基礎を学ぶ。				
授業の到達目標	1) 人間の心の働きと仕組みの基本的事項を説明できる 2) カウンセリングの機能について説明できる 3) カウンセリングの種類と特徴を説明できる 4) 看護に果たすカウンセリングの役割を説明できる				
アクティブ・ラーニング	■ Aディスカッション/ディベート □ Bグループワーク □ Cプレゼンテーション □ D実習/フィールドワーク ■ Eその他(ロールプレイ)				
対応するDP	■ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 □ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 □ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 □ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 □ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	■ <b>I.「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 □ <b>II.「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 □ <b>III.「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 □ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 □ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 □ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	心理学とは			安齊
	2回	感覚、知覚			安齊
	3回	記憶、学習			安齊
	4回	心の発達			安齊
	5回	情動、動機づけ			安齊
	6回	他者の中の自己			安齊
	7回	性格			安齊
	8回	脳と心			安齊
	9回	ストレスとカウンセリング			安齊
	10回	カウンセリングと大学生			安齊
	11回	カウンセリングとグループ			安齊
	12回	PTSDとカウンセリング			安齊
	13回	認知行動カウンセリング			安齊
14回	まとめ			安齊	
成績評価の方法	レポート70%、授業への参画態度30%				
教科書	大山正,安齊 順子(2007)「あたりまえの心理学—心理学入門」文化書房博文社				
参考書	渡邊敦子、安齊順子(2015)「対人関係とコミュニケーション」北樹出版				
事前・事後学修	事前に教科書や提示された参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	生活と人間工学	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	村田 裕子	必修選択	■ 必修 □ 選択		
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	人間工学の視点から、安全・安楽に効率のよい作業を行うための原理を理解する。また看護職に必要とされる日常生活上の動作・諸機能などとの関連について、看護ケアが患者・看護師の身体への影響を人間工学の側面からも学ぶ。				
授業の到達目標	1) ボディメカニクスについて説明できる 2) 看護業務に関係する、人間工学上のリスクとその対策について説明できる 3) 人間工学上の安全性の確保について説明できる				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート □ B グループワーク ■ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク □ E その他 ( )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	特に定めない				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	人間工学とは			村田
	2回	看護業務と人間工学			村田
	3回	五感、身体と作業			村田
	4回	ボディメカニクスⅠ			村田
	5回	ボディメカニクスⅡ			村田
	6回	作業の負担を軽減する技			村田
	7回	看護業務に潜むリスク			村田
	8回	リスクマネジメント			村田
	9回	安全性の確保			村田
	10回	情報とコントロール			村田
	11回	ME機器とその役割			村田
	12回	マネジメントサイクル			村田
	13回	身近な人間工学の応用			村田
	14回	まとめ			村田
成績評価の方法	試験70%、授業への参画状況、態度30%				
教科書	小川鐘一(2008)「イラストで学ぶ看護人間工学」東京電機大学出版局				
参考書	適宜授業内で提示する				
事前・事後学修	事前に教科書や提示された参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				



科目名	健康科学Ⅱ（実践）	単位	2単位	時間数（回数）	30時間（14回）
担当教員名	藤井 洋武		必修選択	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
配当学年	1年、2年	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input checked="" type="checkbox"/> 前半	<input checked="" type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中
科目の概要	体育館等を使用して、様々な種類の運動を行う。実際に様々な運動を経験することで、運動が身体的、心理的、社会的に及ぼす影響について自ら体験し考察する。また、運動を通じて仲間と協働することや、心身の健康を維持するための生活の中に運動を取り入れる重要性を学ぶ。				
授業の到達目標	1) 疲れにくい歩き方を説明できる 2) 多くの仲間と積極的に関わられるようになる 3) 自分の得手不得手をしり、自分に合った運動の仕方を模索できるようになる 4) 得意なものはより楽しみ、得意でないものにはチャレンジできるようになる 5) 運動の実践を通して、運動が健康的な生活に果たす役割を説明できる				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input checked="" type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（ ）				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回	ガイダンス			藤井
	2回	からだほぐし・レクリエーション			藤井
	3回	ウォーキング			藤井
	4回	ウォーキング・各種スポーツ			藤井
	5回	バレーボール（ミニコートでのバレーボール）			藤井
	6回	フットサル			藤井
	7回	バスケットボール			藤井
	8回	卓球・バドミントン・屋外スポーツ1			藤井
	9回	卓球・バドミントン・屋外スポーツ2			藤井
	10回	卓球・バドミントン・屋外スポーツ3			藤井
	11回	ニュースポーツ			藤井
	12回	ヨガ体験			藤井
	13回	ミニ羽子板			藤井
	14回	ミニ羽子板大会			藤井
成績評価の方法	出席状況60%、授業への参加態度20%、レポート課題20%（課題は第14回授業内に実施予定）				
教科書	特に定めない				
参考書	特に定めない				
事前・事後学修	検温と健康チェックをし、運動に備える。また、実施種目の特性や運動効果について復習する				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	音楽	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	西村 祐		必修選択	<input type="checkbox"/> 必修	<input checked="" type="checkbox"/> 選択
配当学年	1年	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input checked="" type="checkbox"/> 前半	<input checked="" type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中
科目の概要	音楽が人の身体、精神、社会的な状態に与える影響を理解する。また、音楽を通して豊かな人間性を涵養し、創造性と感性を育む。さらに音楽療法についての概要と、医療現場でどのように活用され看護と結びつくのか、実際の音楽療法の場面について体験や説明を通して学ぶ。				
授業の到達目標	1) 音楽が人間に与える影響を自分の言葉で説明できる 2) 自分が発する音(話しも含む)へ関心を持ち、それが他者に与える影響を説明できる 3) 音楽療法について説明できる 4) 校歌の意味を考え、歌うことができる				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート		<input type="checkbox"/> B グループワーク	<input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション	
	<input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク		<input checked="" type="checkbox"/> E その他(歌唱、演奏)		
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	特に定めない				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	クラシック音楽とは？果たして本当に癒されるものなのか			西村
	2回	クラシック音楽で使われる言葉と基礎知識			西村
	3回	同じ曲でもこんなに違う演奏(同曲異演)			西村
	4回	テレビやCMなどでよく耳にする音楽			西村
	5回	バロック～古いけれど新しい音楽			西村
	6回	古典派～有名な曲をあらためて			西村
	7回	ロマン派～感情に訴えかける音楽			西村
	8回	20世紀～現代のクラシック音楽への道			西村
	9回	BGM・環境音楽＝空間に音があるということ			西村
	10回	音楽療法とは(ゲストスピーカー)			西村
	11回	音楽療法を体験してみよう(ゲストスピーカー)			西村
	12回	校歌を歌ってみよう①			西村
	13回	校歌の歌ってみよう②			西村
14回	これまでのまとめ			西村	
成績評価の方法	レポート70%、授業への参画状況・態度30%				
教科書	特に定めない				
参考書	授業内で適宜紹介する				
事前・事後学修	授業に当たって特に事前の準備は必要ありません。ただ「クラシック音楽らしきもの」が聞こえてきたら雰囲気だけでも覚えておいてください。また授業後は、ここで見聞きした音楽を、聴き直す時間を取ってください。				
その他アドバイス	この授業は、講義と鑑賞の2本立てで行います。音に対する感性、あるいは音楽鑑賞に対するマナーなどに言及しますので、「聴く態度」を重要視します。				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	英語Ⅰ（講読基礎）	単位	1単位	時間数（回数）	30時間（14回）
担当教員名	今尾 香雪		必修選択	<input checked="" type="checkbox"/> 必修	<input type="checkbox"/> 選択
配当学年	1年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input checked="" type="checkbox"/> 前半	<input checked="" type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中
科目の概要	英語での表現力（話す・書く）・英語の聴解力・読解力の4技能を通して、英文理解のために必要な購読の基礎について学ぶ。				
授業の到達目標	1) 語彙数を高校レベルより200～300語程度増やす。 2) 英文を読んで大意(skimming)をつかむ。 3) 英文から必要な情報を読み取る(scanning)ことができる。 4) 基礎的な英文を読んで理解し、自分の言葉で内容説明ができる。 5) シャドーイングや音読で英語のリズムを身につけ、学習した英語表現を聞き取ったり書いたりできる。				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（ ）				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回 4/15	オリエンテーション			今尾
	2回 4/22	Chapter 1：Polio and Vaccination			今尾
	3回 4/23	2：A Doctor's Prescription			今尾
	4回 5/13	3：A Barometric Pressure and Migrains			今尾
	5回 5/20	4：Internal Medical Exam			今尾
	6回 5/27	5：Colon Polyps			今尾
	7回 6/3	6：Respiratory Symptoms			今尾
	8回 6/10	Review 1, Chapter 7：Diabetes			今尾
	9回 6/17	8：Coronary Arterial Problems			今尾
	10回 6/24	9：A Single Doctor's Office Visit and Health Insurance			今尾
	11回 7/1	10：Allergic Reactions			今尾
	12回 7/8	11：COVID-19, 12: Heartburn and Endoscopy			今尾
	13回 7/15	13: Menopause			今尾
14回 7/29	まとめ、期末テスト			今尾	
成績評価の方法	授業への参画態度20%、期末テスト80%				
教科書	西原 俊明(2022)「English for Medicine」 金星堂				
参考書	特に定めない。				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当するページの単語を予習して授業に臨むこと。また、Review Testで間違えた箇所は見直して理解を深めること。				
その他アドバイス	授業では様々なリーディングスキルを学びます。読む時にはぜひ応用して下さい。				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	英語 II (会話基礎)	単位	1 単位	時間数 (回数)	30時間 (14回)
担当教員名	今尾 香雪		必修選択	■ 必修      □ 選択	
配当学年	1 年	□ 前期 ■ 後期	前半/後半	■ 前半      ■ 後半      □ 集中	
科目の概要	聴き取り・発音・発話練習を通して、英文理解のために必要な会話の基礎について学ぶ。				
授業の到達目標	1) 主題を聞きとることができる 2) 会話の内容を推測できる 3) 正しい発音ができる 4) 医療や看護に関する英会話を聞き取り理解できるようになる。 5) 医療や看護に関する単語やフレーズを覚え使えるようになる。				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 (      )				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> <b>I. 「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>II. 「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>III. 「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1 回	オリエンテーション：コース概要、アイスブレイク			今尾
	2 回	初心患者の受付から会計まで (1)			今尾
	3 回	初心患者の受付から会計まで (2)			今尾
	4 回	やけどの患者の診察介助			今尾
	5 回	大腸内視鏡検査の各種説明と介助			今尾
	6 回	救急患者と家族への対応			今尾
	7 回	採血の前の確認をする			今尾
	8 回	復習と中間テスト (第 2 回～第 7 回)			今尾
	9 回	入院患者の受付から病棟案内まで			今尾
	1 0 回	入院中の糖尿病患者の指導			今尾
	1 1 回	骨折患者の日常生活の援助			今尾
	1 2 回	左麻痺患者の入院生活の介助			今尾
	1 3 回	分娩の介助と産後の育児指導			今尾
	1 4 回	期末試験・まとめ			今尾
成績評価の方法	参画態度20%、中間試験30% 期末試験50%				
教科書	野田小枝子『ナースのための病院英会話』シナジー、2013年				
参考書	特に定めなし				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を読みテーマを確認しておく。授業後は授業で学んだ単語と会話表現を練習すること。CDでリピート練習して理解を深めておく。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				



科目名	中国語Ⅰ（基礎）	単位	1単位	時間数（回数）	30時間
担当教員名	木村 奈津子		必修選択	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input type="checkbox"/> 前半 <input type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	医療現場では様々な背景をもつ対象への対応が必要である。特に川崎市は中国国籍をもつ市民が多いため、中国語の簡単な会話や文章を通して中国の生活や文化、医療制度を学び、異文化を身近に感じながら学ぶ。				
授業の到達目標	1. 中国語の発音（ピンイン）が正確に発音できる。 2. 授業で学習した中国語の基礎的な文法・語彙を会話に活用できる。 3. 中国人の生活について、自分の興味のあるテーマを選んで、紹介できる。				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（ ）				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> <b>Ⅰ.「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>Ⅱ.「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>Ⅲ.「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や教理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件					
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回	授業と中国語についての説明、発音編 発音1声調・単母音			木村
	2回	発音2複母音			木村
	3回	発音3子音			木村
	4回	発音4その他			木村
	5回	発音 発音のまとめと復習			木村
	6回	人称代名詞・副詞 等			木村
	7回	“是”構文・疑問文／反復疑問文・助動詞“会” 等			木村
	8回	指示代名詞・場所代名詞・様々な疑問文 等			木村
	9回	文法のまとめ・復習・活用1（6～8回の復習）			木村
	10回	前置詞“从”・助動詞“想” 等			木村
	11回	“有”構文・疑問詞“几”・量詞 等			木村
	12回	干支・量詞② 等			木村
	13回	文法のまとめ・復習・活用2（10～12回の復習）			木村
	14回	まとめ			木村
成績評価の方法	試験50%、課題25%、小テスト25%				
教科書	木村奈津子 『北京好日子』（2022年度版）白帝社 辞書：クラウン中日辞典 小型版 松岡榮志主幹 三省堂				
参考書	授業内で紹介する				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス	毎回、小テストを行うので、復習すること				
オフィスアワー					

科目名	中国語Ⅱ（発展）	単位	1単位	時間数（回数）	30時間
担当教員名	木村 奈津子		必修選択	<input type="checkbox"/> 必修 <input checked="" type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1年	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input type="checkbox"/> 前半 <input type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	中国語Ⅰを基礎とし、医療現場での中国語会話を会話形式で学ぶ。看護の場での情報収集（問診、症状の聴取）など、ロールプレイなどを通して実際の場面をイメージしながら学ぶ。				
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中国語の音声表記（ピンイン）を正しく発音できる。</li> <li>・基本単語や基本文法を覚える。</li> <li>・簡単な日常会話ができる。</li> <li>・看護師に症状を伝えることができる。</li> <li>・患者に症状を尋ねることができる。</li> </ul>				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（ ）				
対応するDP	<input checked="" type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input checked="" type="checkbox"/> <b>Ⅰ.「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>Ⅱ.「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>Ⅲ.「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <hr/> <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や教理処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	中国語Ⅰ（基礎）を履修していること				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	これまでの学習の振り返り			木村
	2回	日付、曜日、時刻の言い方・時間副詞・副詞②・接続詞“还是”等			木村
	3回	助動詞“想”、“喜欢”、“爱”・助動詞“能”、“可以”、“会”・補語等			木村
	4回	文法の復習・まとめ・活用1（2・3回の復習）			木村
	5回	数を尋ねる疑問詞（応用）・様々な形容詞等			木村
	6回	疑問詞“怎么”（応用）・副詞③等			木村
	7回	文法の復習・まとめ・活用2（5・6回の復習）			木村
	8回	“多少钱”・副詞④等			木村
	9回	助詞“过”・様々な疑問文②等			木村
	10回	二重目的語を取る動詞“给”・動詞表現①等			木村
	11回	文法の復習・まとめ・活用3（8～10回の復習）			木村
	12回	テーマ発表			木村
	13回	患者に症状を聞く（ロールプレイを含む）			木村
14回	護理（中国の看護師）に尋ねる（ロールプレイを含む）			木村	
成績評価の方法	期末考査 50% ・課題 25% ・小テスト25%				
教科書	木村奈津子『北京好日子』（2022年度版）白帝社 辞書：クラウン中日辞典 小型版 松岡榮志主幹 三省堂				
参考書	適宜、紹介をする				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス	毎回小テストを行うので、よく復習しておくこと				
オフィスアワー					

科目名	人体構造機能学Ⅰ(解剖と生理：筋骨格、消化器、泌尿器、生殖器)	単位	2 単位	時間数 (回数)	30時間 (14回)
担当教員名	水嶋 崇一郎、松田 真由美		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1 年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	■ 前半 □ 後半 □ 集中	
科目の概要	対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造（形態）と主な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。特に、筋骨格、神経、呼吸器、循環器、消化器、泌尿器、生殖器系等の解剖について学ぶ。				
授業の到達目標	1) 細胞や組織の構造と働きを理解できる。 2) 人体の骨組みを理解できる。 3) 消化器系については、食物の消化吸収が行われる器官の名称、構造や特徴を口腔側から肛門側まで順に説明できる。 4) 循環器系では、心臓については形態と作用を理解し、血管系では全身の血管の走行と名称を知り、特に動脈系では触知できる部位を特定できる。 5) 呼吸器系については、気道を形成している器官の名称と働きを説明できる。 6) 泌尿器系、内分泌系、感覚器系の構造を説明できる 7) 人体の各器官間の位置関係を把握することで人体の三次元的形態をイメージできる。				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 ( )				
対応するDP	<input type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1 回	人体の基本構造（人体の階層構造、組織の分類、体液の区分、恒常性の維持）			松田、水嶋
	2 回	骨格系：骨の構造と全身の骨 頭蓋骨・脊柱・胸郭			水嶋
	3 回	骨格及び筋肉系：上肢・下肢、筋肉			水嶋
	4 回	神経系：中枢神経、末梢神経			水嶋
	5 回	循環器系：心臓、動脈、静脈			水嶋
	6 回	循環器系：リンパ系、胎児循環			水嶋
	7 回	呼吸器系：気管、気管支、肺			水嶋
	8 回	消化器系：消化管（口腔・口腔腺・咽頭・食道）			水嶋
	9 回	消化管（胃・小腸・大腸・肛門）			水嶋
	1 0 回	消化腺（肝臓・胆嚢・膵臓）			水嶋
	1 1 回	泌尿器系			水嶋
	1 2 回	内分泌系			水嶋
	1 3 回	感覚器系（外皮・嗅覚器・味覚器・視覚器・平衡聴覚器）			水嶋
	1 4 回	生殖器系（外性器、内性器）			水嶋
成績評価の方法	試験60% ミニテスト30%、授業への参画・貢献10%				
教科書	「解剖生理学（ナースング・グラフィカ）」（メディカ出版）				
参考書	「人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第10版（系統看護学講座 専門基礎分野）」（医学書院）				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	人体構造機能学Ⅱ（解剖と生理：循環器、呼吸器、神経、感覚器）	単位	2単位	時間数（回数）	30時間（14回）
担当教員名	長谷 都、松田 真由美		必修選択	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択	
配当学年	1年	<input checked="" type="checkbox"/> 前期 <input type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input type="checkbox"/> 前半 <input checked="" type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造（形態）と主な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。特に、筋骨格、呼吸器、循環器、消化器系の生理・機能について学ぶ。				
授業の到達目標	1) 体液の分布、組成、役割を説明できる。 2) 膜電位発生の仕組み、興奮伝導とシナプス伝達の機構を説明できる。 3) 筋収縮の仕組みを説明できる。 4) 血球の種類と働き・血液凝固系・線溶系の仕組みを説明できる。 5) アシドーシス、アルカローシスについて説明できる。 6) 心臓の刺激伝導系と心筋の興奮機構を説明できる。 7) 肺での換気機能、ガス交換と呼吸調節機構を説明できる。 8) 消化作用における各消化器官の果たす役割を説明できる。 9) 感覚器系器官の果たす役割を説明できる。				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（                    ）				
対応するDP	<input type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	オリエンテーション：看護学の土台となる解剖生理学、ホメオスタシス、細胞の働き			松田、長谷
	2回	骨格筋の構造、興奮収縮連関、骨格筋の収縮様式			長谷
	3回	神経の基本的機能			長谷
	4回	体液 酸塩基平衡、浸透圧調節			長谷
	5回	血液 血液の機能、止血機能、血液型			長谷
	6回	循環器系 ①体循環、肺循環			長谷
	7回	循環生理 ②心臓の興奮、心電図			長谷
	8回	循環生理 ③圧受容器反射、微小循環、リンパ循環			長谷
	9回	呼吸 ①換気、ガスの運搬			長谷
	10回	呼吸 ②呼吸調節			長谷
	11回	消化・吸収 ①消化管運動			長谷
	12回	消化・吸収 ②消化液分泌とその作用、栄養素の消化・吸収機構			長谷
	13回	感覚器系:感覚器と上向伝導路、視覚、聴覚			長谷
	14回	総括			松田
成績評価の方法	試験60% ミニテスト30%、授業への参画・貢献10%				
教科書	「人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第10版（系統看護学講座 専門基礎分野）」（医学書院）				
参考書	「解剖生理学（ナースング・グラフィカ）」（メディカ出版）				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	人体構造機能学Ⅲ（解剖と生理：生命活動と代謝）	単位	2 単位	時間数（回数）	30時間（14回）
担当教員名	長谷 都、松田 真由美	必修選択	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択		
配当学年	1 年	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input checked="" type="checkbox"/> 前半 <input type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	対象者の状態を理解するのに必要な人体の構造（形態）と主な働き（機能）についての基本事項を学ぶ。特に、腎泌尿器、体液の調整、内分泌、脳神経、生体防御系の生理・機能について学ぶ。				
授業の到達目標	1) 排泄と体液調節のしくみについて説明できる。 2) ホルモン分泌調節のしくみについて説明できる。 3) 自律神経系の主要な機能、関与する伝達物質と受容体の種類を説明できる。 4) 体温調節の仕組みについて説明できる。 5) 免疫の仕組みについて説明できる。				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディバート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他（            ）				
対応するDP	<input type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> <b>I. 「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> <b>II. 「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> <b>III. 「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1 回	腎・泌尿器系 ①尿生成機構			長谷
	2 回	腎・泌尿器系 ②尿濃縮・希釈			長谷
	3 回	体液の調節			長谷
	4 回	内分泌 ①内分泌系の機能、ホルモンの種類と作用、視床下部、下垂体のホルモン			長谷
	5 回	内分泌 ②甲状腺、副腎、糖代謝、骨代謝の内分泌調整、			長谷
	6 回	内分泌 ③生殖系			長谷
	7 回	体性神経系・自律神経系の構造とはたらき、反射			長谷
	8 回	脳神経の機能 ①大脳皮質・大脳基底核・大脳辺縁系			長谷
	9 回	脳神経の機能 ②脳幹・小脳・脊髄の機能			長谷
	1 0 回	生体防御機構：免疫系の気管、細胞			長谷
	1 1 回	生体防御機構：免疫応答の仕組み			長谷
	1 2 回	成長、発達の仕組み			長谷
	1 3 回	老化の仕組み			長谷
1 4 回	体温調節の仕組み/総括			松田	
成績評価の方法	試験60% ミニテスト30%、授業への参画・貢献10%				
教科書	「人体の構造と機能[1] 解剖生理学 第10版(系統看護学講座 専門基礎分野)」(医学書院)				
参考書	「解剖生理学(ナーシング・グラフィカ)」(メディカ出版)				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	人体構造機能学Ⅳ（演習）	単位	1単位	時間数（回数）	30時間（14回）
担当教員名	松田 真由美、水嶋 崇一郎	必修選択	■ 必修	□ 選択	
配当学年	1年	□ 前期 ■ 後期	前半/後半	□ 前半	■ 後半 □ 集中
科目の概要	解剖見学実習を通して、＜人体構造機能学＞から得た人体の構造に関する知識の理解を深める。またご献体されたご本人ならびにご遺族へのご意思に深い畏敬の念をもって、倫理的な尊厳を伴った行動を身に付ける。さらに、これまでの解剖・生理の学修の中から、さらに学修を深めたい内容を洗い出し、グループでテーマを定めて、学修を深め、発表する。				
授業の到達目標	1) 循環器系では、血管系の走行と名称を知り、部位を特定できる。 2) 呼吸器系では、気道を形成している器官の名称と働きを説明できる。 3) 泌尿器系では、腎臓の構造と機能を理解し、尿路の順と構造を説明できる。 4) 生殖器系では、男性と女性との違いが説明できる。 5) 骨格では、骨標本をスケッチすることで三次元的に骨の形態を理解し、関節形成時の骨同士的位置関係を把握するとともに筋の起始・停止と骨の形態とを結びつけ説明できる。				
アクティブ・ラーニング	□ A ディスカッション/ディベート ■ B グループワーク ■ C プレゼンテーション ■ D 実習/フィールドワーク □ E その他（ ）				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 ■ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 □ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 □ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 □ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	□ <b>I.「人間理解の基礎」</b> ：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 ■ <b>II.「専門基礎」</b> ：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 □ <b>III.「専門」</b> ：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 □ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回	オリエンテーション：解剖生理に関するアチーブメントテスト			松田
	2回	アチーブメントテストの結果返却と弱点の補強、知識の整理			松田
	3回	テーマ学修：グループに分かれて、解剖・生理学に関してテーマを決めて学修を深める			松田
	4回	テーマ学修：情報の収集と統合			松田
	5回	テーマ学修：発表に向けた整理			松田
	6回	解剖実習のオリエンテーション			松田
	7回	聖マリアンナ医科大学にて、解剖学実習の見学に必要な知識などの復習（11月ごろ）			松田、水嶋
	8回				松田、水嶋
	9回				松田、水嶋
	10回	聖マリアンナ医科大学の協力を得て、解剖学実習に参加する（11月ごろ）			松田、水嶋
	11回	解剖実習の振り返り			松田
	12回	テーマ学修の発表（解剖学関係）			松田、水嶋
	13回	テーマ学修の発表（生理学関係）			松田
14回	総括			松田	
成績評価の方法	課題の発表40%、解剖実習レポート40%、授業への貢献度・参画度20%				
教科書	『解剖生理学（ナースング・グラフィカ）』（メディカ出版）				
参考書	『人体の構造と機能[1] 解剖生理学第10版（系統看護学講座 専門基礎分野）』（医学書院）				
事前・事後学修	＜人体構造機能学Ⅰ～Ⅲ＞の授業内容を必ず事前に復習してから、授業に臨むこと。また、授業後は、その都度指示する事項の復習を必ず行うとともに、映像教材などを利用して理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	病態生理学Ⅰ (基礎・呼吸・循環器)	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	坂元 昇、佐山 宏一、西澤 健也		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	□前期 ■後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	<p>主要な疾患について、疾患概念、病気のプロセス、病態生理と症候(症状と身体所見)、検査所見、治療の基礎知識、予後を関連付けて学ぶ。また、疾患を抱える対象の理解に必要な看護のアセスメントを学ぶ(人体と細胞、ホメオスタシス、循環器系、呼吸器系)。</p>				
授業の到達目標	呼吸器系及び循環器系の主な疾患をあげて、それらの病態、症状、診断、治療、予後について説明することができる。				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input checked="" type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他( )				
対応するDP	<input type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> I「人間理解の基礎」:看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> II「専門基礎」:倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III「専門」:看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回	疾病の診断の基本と方法			坂元・看護大学
	2回	細胞の障害、炎症、腫瘍			坂元・看護大学
	3回	ホメオスタシス、老化、廃症候群			坂元・看護大学
	4回	呼吸器系の炎症性の疾患(気管支炎、肺炎)			中野・井田病院
	5回	気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患			亀山・井田病院
	6回	肺循環障害(肺高血圧、肺栓塞症等)			中野・井田病院
	7回	肺結核、気胸、			西尾・井田病院
	8回	肺の腫瘍(肺癌、中皮腫等)			亀山・井田病院
	9回	先天性心疾患、弁膜症			西澤・川崎病院
	10回	不整脈、心筋症			西澤・川崎病院
	11回	虚血性心疾患、心不全			西澤・川崎病院
	12回	血圧異常の病態(本態性高血圧、動脈硬化、二次性高血圧、起立性低血圧)			西澤・川崎病院
	13回	血管系の疾患(大動脈瘤、大動脈解離、閉塞性動脈硬化症、挫滅症候群、下肢静脈瘤、深部静脈血栓)			西澤・川崎病院
	14回	ショック(心原性ショック、出血性ショック、血流分布異常性ショック)			西澤・川崎病院
成績評価の方法	課題20%、授業への参画・貢献度20%、試験60%				
教科書	「病態生理学」「呼吸器」「循環器」(ナーシング・グラフィカ)(メディカ出版)				
参考書	「病気がみえるVol.2循環器」「病気がみえるVol.4呼吸器」(メディックメディア)				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				



科目名	感染と防御	単位	2 単位	時間数 (回数)	30時間 (14回)
担当教員名	美田 誠二		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1 年	□前期 ■後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	感染症の診断・治療・予防あるいは感染防止を進めるにあたり、看護従事者の担う役割は極めて重要である。将来、その役割を担う準備として、微生物学・免疫学の歴史、消毒、感染、免疫、ワクチン・予防接種、化学療法、微生物学的検査、微生物の性質と感染のメカニズムなど、感染と防御の基礎的な知識について学ぶ。				
授業の到達目標	1) 「感染」とは何か、その成立の三要素 (病原体・感染経路・宿主) について説明できる。 2) 感染の制御 (消毒・滅菌、ワクチン・治療薬、標準予防策、感染症法ほか) について説明できる。 3) 近年の感染症の動向 (日和見感染症、薬剤耐性菌、輸入感染症ほか) について概要を説明できる。 4) 感染症の主要な症候・検査所見、診断、治療について概要を説明できる。				
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input type="checkbox"/> E その他 ( )				
対応するDP	<input type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> I. 「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> II. 「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> III. 「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	感染関連の専門用語、感染の成立と三要素、寄生体(病原体)の種類・病原性			美田
	2回	感染防御機構の基礎 (生体防御能：免疫、ワクチン等)			美田
	3回	主な感染経路、標準・感染経路別予防策、医療関連感染、学校保健安全法、消毒・滅菌			美田
	4回	主な病原体① (真核生物：寄生虫、原虫、真菌) と主要な感染症			美田
	5回	主な病原体② (細菌<グラム陽性菌・陰性菌>) と主要な感染症			美田
	6回	主な病原体③ (細菌<嫌気性菌、抗酸菌、スピロヘータ、非定型細菌>) と主要な感染症			美田
	7回	主な病原体④ (ウイルス) と主要な感染症			美田
	8回	現代の主要な感染症 総論 (プリオン病、食中毒(感染症)、人獣共通/輸入/性感染症ほか)			美田
	9回	現代の主要な感染症 各論① (新興/再興感染症、感染症法)			美田
	10回	現代の主要な感染症 各論② (宿主別、全身性・臓器別の主要感染症ほか)			美田
	11回	感染症の主要な症候・検査所見の概要、診断・治療の流れ 1			美田
	12回	感染症の主要な症候・検査所見の概要、診断・治療の流れ 2			美田
	13回	感染 (院内・地域ほか) の制御・防止対策			美田
14回	まとめ			美田	
成績評価の方法	試験80%、各回の小テスト20%				
教科書	「微生物学-疾病の成り立ちと回復の促進④-」医学書院				
参考書	中野隆史(2020)「微生物学・感染症学」南江堂、吉田 眞一(2018)「疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学」医学書院、美田 誠二(2010)「得意になる解剖生理」照林社、村田 満他(2021)「看護に活かす検査値の読み方・考え方」総合医学社				
事前・事後学修	事前に教科書や参考書の各回テーマに該当する箇所を閲覧・キーワードを確認して授業に臨むこと。また、授業後は指示事項等につき必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	代謝と栄養	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	末松 直也	必修選択	■ 必修 □ 選択		
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	正常な人体の仕組みについて、健康の維持に欠かせない三大栄養素(糖質・脂肪・タンパク質)の消化と吸収、これに続く細胞内での物質変化(代謝)とその調節を分子レベルで学ぶ。人体は代謝で得たエネルギーを用いて恒常性を維持し、命を繋ぐ。ビタミンは代謝に必須であり、代謝の異常は疾病を来すことについて学ぶ。				
授業の到達目標	1) タンパク質、糖質、脂質、核酸の構造・化学的特性と生理的意義を説明できる。 2) 消化管における糖質、脂肪、タンパク質の消化と吸収について説明できる。 3) 細胞内での糖質、脂肪、アミノ酸のエネルギー代謝について説明できる。 4) 遺伝子からタンパク質を生成するしくみについて説明できる。				
アクティブ・ラーニング	□ A ディスカッション/ディベート ■ B グループワーク □ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク □ E その他( )				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 ■ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 □ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 □ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 □ (5)地域社会に貢献したいという意欲及び地域包括ケアシステムに資する知識と技術				
対応するCP	□ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 ■ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 □ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 □ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 □ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学習成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	【生化学の基礎】 1.生体分子の成り立ち 一構造式を理解する一			末松
	2回	2.生体分子の親水性/疎水性 一極性を理解する一			末松
	3回	【生体高分子の構造と機能】 1.タンパク質：アミノ酸の重合体☒			末松
	4回	2.多糖：単糖の重合体			末松
	5回	3.核酸：ヌクレオチドの重合体			末松
	6回	【三大栄養素の消化と吸入】 1.炭水化物			末松
	7回	2.脂肪			末松
	8回	3.タンパク質			末松
	9回	【リポタンパク質】脂質の血中輸送☒			末松
	10回	【エネルギー代謝】 1.グルコースの代謝：解糖系 2.脂肪酸の代謝：β酸化			末松
	11回	【エネルギー代謝】 1.グルコースの代謝：解糖系			末松
	12回	2.アミノ酸の代謝：アミノ基転移と尿素回路			末松
	13回	【ポルフィリン代謝】ビリルビンの代謝異常「黄疸」			末松
	14回	【代謝の異常】 糖尿病			末松
成績評価の方法	定期試験(中間・終了)70%、小テスト(毎回)30%				
教科書	皇山 鎮次(2020)「系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 [第14版] 第3刷」医学書院				
参考書	ナーシング・グラフィカ 人体の構造と機能②「臨床生化学」メディカ出版				
事前・事後学修	授業前に教科書の各回テーマに該当する箇所に目を通し、授業後はしっかり復習し、理解を深めておくこと。予習課題・復習課題を提示し、毎回の講義冒頭の小テストで出題するので、自習しておくこと。				
その他アドバイス	理解を伴わない暗記は、応用できないので役に立ちません。建築と同じ積み上げ方式なので、受講できなかった内容は、				
オフィスアワー	非常勤ですので、週に一度の講義の前後に質問して下さい。メールでも質問を受けつけます。				

科目名	公衆衛生学	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	荒木田 美香子		必修選択	■ 必修      □ 選択	
配当学年	1年	□ 前期 ■ 後期	前半/後半	■ 前半      ■ 後半      □ 集中	
科目の概要	公衆衛生の理念と目的、健康の決定要因、ヘルスプロモーションの概念、集団における健康問題に関する予防医学、社会医学の役割と実際について学ぶ。公衆衛生の歴史を振り返りながら、疾病予防、健康の保持増進、健康管理、産業保健、学校保健、環境保健などの諸問題から環境と生活の健康を考え、衛生的な環境づくりについて、公衆衛生活動の様々な実践活動を通して理解する。また川崎市の保健・医療に関するデータを活用し、全国・神奈川県のデータと比較することを通して、統計情報の理解と公衆衛生活動への活用について学ぶ。				
授業の到達目標	1) 人口動態指標、人口静態指標について説明できる 2) 健康と環境との関係について説明ができる 3) 健康の指標となる調査をあげて、その結果の概要について説明できる 4) 母子保健、成人保健、高齢者保健等の制度や日本人にとっての課題を説明できる				
アクティブ・ラーニング	□ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      ■ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク      □ E その他( )				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 ■ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 □ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 □ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 ■ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	□ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 ■ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 □ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 ■ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 ■ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	公衆衛生の概念(ヘルスプロモーション、ポピュレーションアプローチ、ハイリスクアプローチ)			荒木田
	2回	疫学的方法に基づく公衆衛生			荒木田
	3回	健康に関する指標と公衆衛生(人口静態)			荒木田
	4回	健康に関する指標と公衆衛生(人口動態)			荒木田
	5回	健康に関する調査と公衆衛生(行動、生活、医療費等に関する調査)			荒木田
	6回	感染症の基本(感染症法、感染症の成立要件、感染症の予防、予防接種)			荒木田
	7回	環境保健、食品の安全			荒木田
	8回	地域保健、社会保障			荒木田
	9回	母子保健			荒木田
	10回	学校保健			荒木田
	11回	成人保健、職域保健、生活習慣病			荒木田
	12回	高齢者保健			荒木田
	13回	がん対策			荒木田
14回	難病対策、精神保健			荒木田	
成績評価の方法	課題20%、授業への参画・貢献度20%、試験60%				
教科書	「公衆衛生」(ナースング・グラフィカメディカ出版)「国民衛生の動向」((財)厚生労働統計協会)				
参考書	「公衆衛生がみえる」(メディックメディア)				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回のテーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	看護学原論	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	荒木田 美香子、難波 貴代、糸井 裕子、豊増 佳子		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	「看護」、「看護学」とは何かという問いに始まり、看護の定義や役割・機能、看護理論などの看護実践における基盤となる概念について学ぶ。また看護の教育や専門性、医療における職業倫理や患者安全、看護職が多職種と連携する意義等についても学ぶ。自分なりに看護を言語化するとともに、今後、看護を学ぶためのヒト・環境との相互作用についても理解を深める。				
授業の到達目標	1) 看護について、看護活動の場・本質、看護の構造、看護の歴史など幅広い視点で捉え、看護の基本について理解する 2) 看護理論家や看護の職能団体による看護の定義などから「看護とは本質的に何なのか」について考え、説明することができる 3) 健康の定義、人間にとっての健康の意味や諸側面について理解し、個人や社会の健康を守るうえでの看護の役割について説明することができる 4) 看護の対象について理解するとともに、その看護活動が持つ機能や意義について説明できる				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      ■ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク      □ E その他 ( )				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、様々な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 ■ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 ■ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 ■ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 □ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	□ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 □ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 ■ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 □ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	ガイダンス・看護とは			荒木田、糸井
	2回	看護の歴史の変遷			荒木田、糸井
	3回	看護活動の本質と目標			荒木田、糸井
	4回	看護の対象理解1：コミュニケーション			豊増
	5回	看護の対象理解2：身体的、精神的、社会的反応			豊増
	6回	看護の対象とライフサイクル			豊増
	7回	健康と生活			荒木田
	8回	看護活動が持つ機能			荒木田、糸井
	9回	看護理論概説			荒木田、糸井
	10回	保健医療と国際協力			難波
	11回	Evidence Based Nursing Practices			荒木田、糸井
	12回	看護職の役割と可能性			豊増
	13回	キャリアデザイン			豊増
14回	看護学原論まとめ			荒木田、豊増	
成績評価の方法	レポート30%、課題10%、試験60%				
教科書	「看護学概論」(ナーシング・グラフィカ メディカ出版)				
参考書	「看護覚え書—看護であること看護でないこと」(現代社)「看護の基本となるもの」(日本看護協会出版会)「看護学原論—看護の本質的理解と創造性を育むために」(南江堂)				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	基礎看護学技術Ⅰ (共通基本技術)	単位	1 単位	時間数 (回数)	30時間 (14回)
担当教員名	掛田 宗寛、豊増 佳子、青木 恵美子、 岩屋 裕美、松田 真由美		必修選択	■ 必修	□ 選択
配当学年	1 年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	□ 前半	■ 後半 □ 集中
科目の概要	看護の対象となる者を生活者の視点で捉えながら、必要とされるニーズに即した看護の提供について学ぶ。また、生活行動の援助技術の概念・援助の基本的な方法を理解し、看護実践に必要な基本的な技術を学ぶ。				
授業の到達目標	1) 日常生活を送る上で支援を必要とする対象者への基本的な支援と技術について説明できる 2) 療養者の日常生活を援助する看護技術に関してアセスメントの必要性を理解し、その原理・原則や留意点について説明できる 3) 安全・安楽・自立を考慮した援助方法、看護職者としての態度及び姿勢について説明できる				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      □ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク      □ E その他 ( )				
対応するDP	<input type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input checked="" type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input checked="" type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1 回	安全の講義 (スタンダードプリコーションを含む)			掛田
	2 回	衛生的な手洗い演習			掛田、豊増、青木、 岩屋、松田
	3 回	療養環境調節の講義			岩屋
	4 回	環境及び寝床内気候の調節演習			豊増、青木、岩屋、
	5 回	療養ベッド作成演習			松田
	6 回	活動と休息の講義			青木
	7 回	体位調節、ポジショニング及び体位変換演習			豊増、青木、岩屋
	8 回	生命維持反応及びモニタリングの講義			掛田
	9 回	バイタルサイン測定演習			掛田、豊増、青木、 岩屋、松田
	1 0 回	衣生活の講義			青木
	1 1 回	寝衣交換演習			豊増、青木、岩屋
	1 2 回	寝衣及びリネン交換演習			
	1 3 回	総合実技演習			掛田、豊増、青木、 岩屋、松田
1 4 回	基礎看護学技術Ⅰまとめ				
成績評価の方法	試験60%、実技試験25%、課題15%				
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 (メディカ出版)				
参考書	・看護技術がみえる① 基礎看護技術 MEDIC MEDIA 医療情報科学研究所 ・その他、適宜紹介します。				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	基礎看護学技術Ⅱ (生活支援技術)	単位	2 単位	時間数 (回数)	60時間 (28回)
担当教員名	掛田 崇寛、豊増 佳子、青木 恵美子、 岩屋 裕美		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1 年	□ 前期 ■ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半	□ 集中
科目の概要	食事、排泄、身体の清潔等の基本的な生活支援のための知識及び技術の演習を通して、様々な健康レベルの状況にある対象者の安全で、且つ安楽な療養生活を支援するための基本的技術を学ぶ。				
授業の到達目標	1) 安全及び安楽を基盤に、対象者の自立及び個性を考慮した援助方法について説明できる 2) 食事、排泄、身体の清潔における日常生活支援を必要とする対象者への基本的な知識及び技術について説明できる 3) セルフケア能力が低下した療養者に対して実際に援助適応するための方法を学び、看護者としての姿勢及び態度を身につける				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート ■ B グループワーク □ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク ■ E その他 (シミュレーター及びモデル人形演習)				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 ■ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 ■ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 ■ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 □ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	□ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 □ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 ■ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 ■ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	看護職者の感染予防対策			掛田
	2回	衛生的な手洗い復習及び滅菌手袋装着演習			掛田、豊増、青木、 岩屋
	3回	ガウンテクニック演習			岩屋
	4回	移動及び移送の講義			岩屋
	5回	歩行支援及び車椅子演習			豊増、青木、岩屋
	6回	ストレッチャー演習			岩屋
	7回	安楽の講義			岩屋
	8回	安楽演習 (体圧分散・Cooling)			豊増、青木、岩屋
	9回	リラクゼーション演習			豊増、青木、岩屋
	10回	食生活の講義			青木
	11回	食事介助・口腔ケア演習			豊増、青木、岩屋
	12回	経鼻経管栄養法演習			豊増
	13回	清潔の講義Ⅰ			豊増
	14回	清潔の講義Ⅱ			豊増
	15回	清拭演習			掛田、豊増、青木、 岩屋
	16回	洗髪演習			掛田、豊増、青木、 岩屋
	17回	部分浴演習 (足浴)			岩屋
	18回	部分浴演習 (手浴)			岩屋
	19回	排泄の講義Ⅰ			岩屋
	20回	排泄の講義Ⅱ			岩屋
	21回	排尿介助・陰部洗浄演習			掛田、豊増、青木、 岩屋
	22回	オムツ交換・排便介助 (浣腸) 演習			
	23回	間歇的導尿演習			
	24回	持続的導尿演習			
	25回	総合実技演習			
	26回	総合実技演習			
	27回	総括演習			
28回	基礎看護学技術Ⅱまとめ				
成績評価の方法	試験60%、実技試験25%、課題15%				
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 (メディカ出版)				
参考書	適宜紹介します。				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	基礎看護学技術Ⅲ (診療支援技術)	単位	1 単位	時間数 (回数)	30時間 (14回)
担当教員名	掛田 崇寛、豊増 佳子、青木 恵美子、 岩屋 裕美	必修選択	<input checked="" type="checkbox"/> 必修 <input type="checkbox"/> 選択		
配当学年	1 年	<input type="checkbox"/> 前期 <input checked="" type="checkbox"/> 後期	前半/後半	<input checked="" type="checkbox"/> 前半 <input checked="" type="checkbox"/> 後半 <input type="checkbox"/> 集中	
科目の概要	看護の対象が安全・安楽に受療可能なように診療の補助に関する基本的な援助技術について学ぶ。演習では主に医師が行う診療介助に関する知識や技術、対象者への診療時の看護について学ぶとともに、当該技術のエビデンスや原理・原則を理解する。				
授業の到達目標	1) 診療の補助に関する看護実践における専門的知識及び技術を身につける 2) 侵襲を伴う処置や援助技術に関しては予め対象者の安全と安楽が担保されるように、それぞれの援助技術の目的や意義、危険回避やその方法について説明できる				
アクティブ・ラーニング	<input checked="" type="checkbox"/> A ディスカッション/ディベート <input checked="" type="checkbox"/> B グループワーク <input type="checkbox"/> C プレゼンテーション <input type="checkbox"/> D 実習/フィールドワーク <input checked="" type="checkbox"/> E その他 (シミュレーター及びモデル人形演習)				
対応するDP	<input type="checkbox"/> (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 <input checked="" type="checkbox"/> (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 <input checked="" type="checkbox"/> (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 <input checked="" type="checkbox"/> (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 <input type="checkbox"/> (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 <input checked="" type="checkbox"/> 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 <input type="checkbox"/> 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 <input checked="" type="checkbox"/> 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授 業 計 画	回数	テーマ			担当者
	1回	診療の補助行為に対する看護の講義 (医療事故予防を含む)			掛田
	2回	呼吸を整える援助技術			掛田
	3回	酸素療法演習			掛田、豊増、青木、
	4回	口腔内吸引演習			岩屋
	5回	検査に関する講義Ⅰ			豊増
	6回	検査に関する講義Ⅱ			豊増
	7回	採血及び検体採取演習			掛田、豊増、青木、 岩屋
	8回	与薬に関する講義			
	9回	与薬調剤演習			
	10回	点滴静脈内注入療法演習			岩屋
	11回	輸血療法に関する講義			
	12回	入院時の看護とエンゼルケア技術に関する講義			青木
	13回	総合演習			掛田、豊増、青木、
14回	基礎看護学技術Ⅲまとめ			岩屋	
成績評価の方法	試験60%、実技試験25%、課題15%				
教科書	ナーシング・グラフィカ 基礎看護技術 (メディカ出版)				
参考書	適宜紹介します。				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				



科目名	看護コミュニケーション論Ⅰ (基本)	単位	1単位	時間数(回数)	15時間(7回)
担当教員名	廣川 聖子、岩屋 裕美		必修選択	■ 必修      □ 選択	
配当学年	1年	■ 前期 □ 後期	前半/後半	□ 前半      ■ 後半      □ 集中	
科目の概要	看護において、コミュニケーションが人々との相互の関係に影響することを理解し、信頼関係の形成、人間関係の構築において必要となるコミュニケーションの仕組みと、基本的な方法について、ロールプレイやプロセスレコードに関する演習などを入れながら、自身のコミュニケーションパターンについても学ぶ。				
授業の到達目標	1) 振り返りも含めて、ロールプレイを展開できる 2) アサーティブなコミュニケーションについて説明できる 3) 患者や家族とのコミュニケーションで留意すべきことを説明できる 4) プロセスレコードの意義、目的、方法を理解し、プロセスレコードを作成することができる				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      □ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク      ■ E その他( 模擬患者の活用 )				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、様々な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 □ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 ■ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 ■ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 □ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	□ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 □ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 ■ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 □ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	看護におけるコミュニケーション			廣川
	2回	自己紹介、人をより深く知るためのコミュニケーション			岩屋
	3回	コミュニケーションのタイプ(バーバル、ノンバーバル等)			廣川、岩屋
	4回	積極的傾聴と共感			
	5回	アサーティブなコミュニケーション			
	6回	プロセスレコードの考え方			
7回	プロセスレコードの実践(模擬患者の活用)				
成績評価の方法	課題60%、グループワークへの参画態度20%、ミニレポート20%				
教科書	デジタルナーシンググラフィカ 看護学概論(18巻)、デジタルナーシンググラフィカ 基礎看護技術(20巻)				
参考書	「看護がみえる vol.2 臨床看護技術」(メディックメディア)				
事前・事後学修	事前に教科書及び参考書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	看護倫理学Ⅰ（基本）	単位	1単位	時間数（回数）	15時間（7回）
担当教員名	山崎 由美子、嵐 弘美、吉田 みつ子		必修選択	■ 必修      □ 選択	
配当学年	1年	□ 前期 ■ 後期	前半/後半	■ 前半      □ 後半      □ 集中	
科目の概要	社会のグローバル化、高齢化社会と疾病構造の変容、従来の価値観の変化などを背景に医療現場では様々な倫理的問題が出現してきている。看護の基盤となる人々の基本的人権を理解し擁護する必要性を認識でき、看護職としての倫理観を持ち法令を遵守して行動できるよう、看護倫理の概念、理論、歴史、倫理綱領などから基礎的な知識を学ぶ。				
授業の到達目標	1) 生命倫理の原則、看護職の倫理について説明できる 2) 患者の人権を守るための倫理的方法について説明できる 3) 現代の保健医療における倫理的課題を取り上げ、自分の考えを述べるができる				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      □ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク      ■ E その他（模擬シンポジウム）				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、様々な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 ■ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 ■ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 ■ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 ■ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	□ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 □ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 ■ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 ■ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	道徳と倫理			山崎
	2回	看護師と倫理規定、保健師助産師看護師法と倫理的責務			吉田
	3回	倫理原則および看護実践上重要な倫理的概念、倫理的問題を検討するための方法論			吉田
	4回	患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持			嵐
	5回	現代医療における倫理的課題：出生前診断、遺伝子治療、妊娠中絶、男女産み分け、代理出産			山崎
	6回	現代医療における倫理的課題：看護師が精神科医療の現場で経験する倫理的課題			嵐
7回	模擬シンポジウム：倫理に関するテーマを決めて、川崎市の保健医療職の参加を得て実施する			山崎	
成績評価の方法	試験60%、グループワークへの参画態度10%、ミニレポート30%				
教科書	「看護倫理—よい看護・よい看護師への道しるべ」（南江堂）				
参考書	適宜、提示する。				
事前・事後学修	事前に教科書の各回テーマに該当する箇所を熟読し、授業に臨むこと。また、授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	地域・在宅看護学概論	単位	2単位	時間数(回数)	30時間(14回)
担当教員名	難波 貴代、木全 真理		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	□ 前期 ■ 後期	前半/後半	■ 前半 ■ 後半 □ 集中	
科目の概要	生活の場としての地域・社会の意味を考え、住み慣れた地域で生活する人々とその家族を理解し、地域包括ケアシステムについての基礎及び看護展開の基礎を学ぶ。本授業は1回から8回までは授業の概要に沿ったテーマについて話題提供および講義を行う。9回から14回は国・県・市のレベルにおける地域包括ケアシステムのあり方について講義を実施した後、川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービスの連動について学生がグループに分かれ、今後の日本社会を見据えた観点から、住み慣れた地域でどのような地域包括ケアシステムであればよいか討議し、その結果をプレゼンテーションする。				
授業の到達目標	1) 在宅看護の対象、機能、役割について説明できる 2) 在宅ケアにおけるケアマネジメントの意義と方法について説明できる 3) 国の地域包括ケアシステムと川崎市の地域包括ケアシステムの相違点について説明できる				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート      ■ B グループワーク      ■ C プレゼンテーション □ D 実習/フィールドワーク      □ E その他( )				
対応するDP	□ (1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 □ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 ■ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 ■ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 ■ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	□ I.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 □ II.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 ■ III.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 □ 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 ■ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	なし				
授業計画	回数	テーマ			担当者
	1回	在宅看護の位置づけ、機能と役割、定義と目的			難波
	2回	在宅看護の倫理と基本理念			難波
	3回	在宅ケアと在宅看護および訪問看護			難波
	4回	在宅看護の対象者と在宅療養の成立要件			難波
	5回	在宅療養者と家族			難波
	6回	訪問看護の特徴			難波
	7回	在宅ケアとケアマネジメント			難波
	8回	地域包括ケアシステムにおける在宅でのネットワーク			木全
	9回	川崎市における地域包括ケアシステム(介護、予防、住まい、医療、生活支援)			木全
	10回	川崎市の社会資源活用と在宅看護にかかわる保険制度			木全
	11回	川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービス(高齢者)			木全
	12回	川崎市の地域包括ケアシステムと地区ごとの居宅サービス(GW高齢者)			木全
	13回	川崎市の地域包括ケアシステムと居宅サービス(障害者)			木全
	14回	今後の在宅看護の展望			難波
成績評価の方法	試験80%、課題20%				
教科書	ナーシンググラフィカ 地域療養を支えるケア 在宅看護論(メディカ出版)				
参考書	国民衛生の動向(厚生労働統計協会)				
事前・事後学修	事前に資料などを配布するため授業までに熟読し、質問事項を考えておくこと。また授業後はその都度指示する事項について、必ず復習し、理解を深めること。				
その他アドバイス	在宅医療などは日ごろから新聞やテレビなどで取り上げられることが多いため、社会情勢に関心をもってもらいたい。				
オフィスアワー	時間割確定後に明示				

科目名	基礎看護学実習Ⅰ(基礎)	単位	1単位	時間数(回数)	45時間/5日
担当教員名	掛田 崇寛、豊増 佳子、青木 恵美子 岩屋 裕美、松田 真由美		必修選択	■ 必修 □ 選択	
配当学年	1年	□ 前期 ■ 後期		前半/後半	□ 前半 □ 後半 ■ 集中
科目の概要	医療機関における看護職の役割について理解するとともに、その機能や各部門との連携について学ぶ。また、実際の看護提供の場を見学することで、入院している対象者の生活について理解するとともに、看護職としての意識づけにつなげる。さらに、患者とのコミュニケーションやバイタルサインの測定を通じて、看護とは何かを考え、自らの課題を把握し、主体的に看護を学ぶ姿勢を身に付ける。				
授業の到達目標	1) 対象者の生活や気持ち、身体状況について説明できる 2) 患者に提供される看護ケアの実際及び看護職の役割について説明できる 3) 看護提供の場としての医療機関の役割・機能について説明できる				
アクティブ・ラーニング	■ A ディスカッション/ディベート ■ B グループワーク ■ C プレゼンテーション ■ D 実習/フィールドワーク □ E その他 ( )				
対応するDP	(1)社会構造の変化を見据え、様々な年代、多様な人々の生活の維持・向上につながる支援を考究し実践できる社会人基礎力 ■ 力 ■ (2)高い倫理性と科学的根拠に基づいた判断力を持ち、効率的・効果的に看護を実践できる力 ■ (3)先見性、柔軟性、創造性を持ち、他者や多職種と協働して実践できる能力 ■ (4)医療の高度化、生活様式や社会の多様化に対応し、看護の改善・発展に取り組むことができる専門職としての基礎力 ■ (5)地域包括ケアシステムに資する意欲・知識・技術				
対応するCP	<input type="checkbox"/> Ⅰ.「人間理解の基礎」：看護職としての専門的能力の基盤となる社会人基礎力を養う科目区分 <input type="checkbox"/> Ⅱ.「専門基礎」：倫理的及び科学的に看護を実践するための基礎となる力を養う科目区分 <input checked="" type="checkbox"/> Ⅲ.「専門」：看護専門職としての基礎力や実践力、他者や多職種と協働する力を養う科目区分 ■ 1)カリキュラムの構成は、基礎的な内容から、専門的・発展的な内容へと段階的に学修ができるよう、内容の順次性を考慮して配置する。 ■ 2)看護専門職としての基礎力を育成するために、講義・演習・実習を有機的に機能させる。 ■ 3)先見性、柔軟性、創造性を養うために、ICT、シミュレーション教育、e-learning、領域横断的なセミナー等を活用するとともに、アクティブ・ラーニングを基本とした多様な教育方法を取り入れる。 <input type="checkbox"/> 4)論理的思考力や数値処理の基礎力を育成するために、川崎市の保健・医療・福祉・生活に関する統計情報等を活用する。 ■ 5)人々の生活、社会と健康との関係、多職種連携等地域包括ケアシステムに資する能力を育成するために、実習場所、講義へのゲストスピーカー、模擬患者等、川崎市の社会資源を活用する等、系統的に地域包括ケアシステムを学ぶ科目を設定する。 ■ 6)学生が各科目の到達目標を理解しやすいシラバスとし、学修成果を確認できる学修ポートフォリオの活用によって、意欲、知識、技術等を総合的に評価する。				
履修条件	<看護学原論>を履修していること。				
実習計画	テーマ				担当者
	第1日目(臨地)	病院オリエンテーション・看護部長講義・病院ラウンド・病棟実習			掛田、豊増、青木、 岩屋、松田
第2日目(臨地)	臨地実習：個別対象者理解・バイタルサイン測定・ケア見学及び体験				
第3日目(臨地)	臨地実習：個別対象者理解・バイタルサイン測定・ケア見学及び体験				
第4日目(臨地)	臨地実習：個別対象者理解・バイタルサイン測定・ケア見学及び体験				
第5日目(学内)	実習全体反省会、記録整理、個別面談				
成績評価の方法	実習目標及びその評価表に基づいて行う。具体的には実習目標に対する到達度60%、課題レポート10%、実習態度・姿勢30%で評価する。				
教科書	特に定めない。				
参考書	適宜、提示する。				
事前・事後学修	実習オリエンテーションで提示する課題に取り組むとともに、実習期間中に要求される姿勢や態度、基本的知識を踏まえて実習に臨むこと。また、実習後は、その都度指示する事項の振り返りを行うとともに、映像教材などを利用して理解を深めること。				
その他アドバイス					
オフィスアワー	時間割確定後に明示				